

今月のトピックス

～女性の労働力率増加への取り組み～

先月発表された男女平等の推進団体である「エクイリープ」による「2018年男女平等に関する企業間国際ランキングTOP200」（図表1）によると、上位10社に豪州企業が2社ランクインしました。国別でみると豪州は4位で、法を整備し企業の透明性を向上させるなどの取り組みにより評価された模様です。

実際に、2014年にブリスベンで開かれたG20サミットにおいて、2025年までに男女間の労働力率の格差を25%削減するという目標が合意された中、豪州では雇用・労使関係・女性問題担当相を中心に男女間格差の解消に取り組んでいます（図表2）。具体的には男女の労働力率の格差を9.1%（図表3）にすることを意味していますが、豪州の女性の労働力率は確実に増加しており、このペースが続くと、上記の目標に達成する見込みであると豪州政府はみています。

2017-2018年度における「2025年に向けての実行計画」ではおよそ370億豪ドルを投資し、チャイルドケア施設の増設は当然のことながら、職場近くへの建設など様々な働き方に対応したチャイルドケア施設の建設により利用者の選択の幅を広げるよう対応しています。また、就学児が放課後利用可能な施設なども充実させているほか、在宅勤務などフレキシブルなワークスタイルを企業に促進するなど様々な対策を講じています。

女性の労働力率の増加を促進することは生活水準の向上にも直結するため、政府は今後の豪州経済に大きく貢献するとしており、250億豪ドル相当の経済効果をもたらすとしています。このような環境下、政府は目標を定め女性の就労を今後も支援していくものと考えられます。

図表1：2018年男女平等に関する企業間国際ランキング上位10社

社名	国	セクター
1 ゼネラル・モーターズ	米国	一般消費財
2 ロレアル	フランス	一般消費財
3 ケリング	フランス	一般消費財
4 メルク	米国	一般消費財
5 スターバブ	シンガポール	通信
6 テレ2	スウェーデン	通信
7 ウェストパック	豪州	金融
8 ナショナル・オーストラリア・バンク	豪州	金融
9 スウェッドバンク	スウェーデン	金融
10 JPMorgan・チェース	米国	金融

出所：エクイリープのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

図表2

※期間：1988年1月～2018年9月（月次）

出所：オーストラリア統計局のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

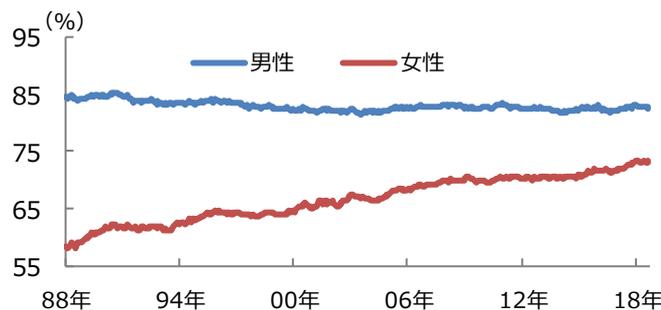
図表3

※期間：2014年～2018年（年次）ただし、2018年は9月末時点

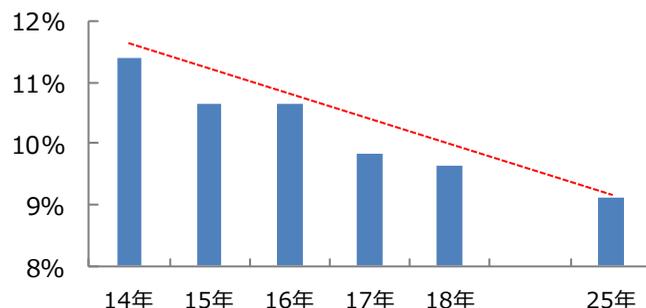
※2025年は目標値

出所：オーストラリア統計局のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

図表2：男女別の労働力率



図表3：男女間の労働力率の格差



※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



アセットマネジメントOne

商号等：アセットマネジメントOne株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

10月の豪ドル相場は、対米ドルで下落。

10月の豪ドルは、対米ドルで下落しました。月前半は、RBA（豪州準備銀行）が24会合連続で政策金利を据え置いたことや、パウエルFRB議長による利上げの継続を示唆する発言から下落しました。月中盤にかけて米ドル安が進んだことで値を戻しましたが、月後半には再びリスク回避姿勢が強まり、豪州の長期金利が低下基調となったことで下落しました。

今後の見通し

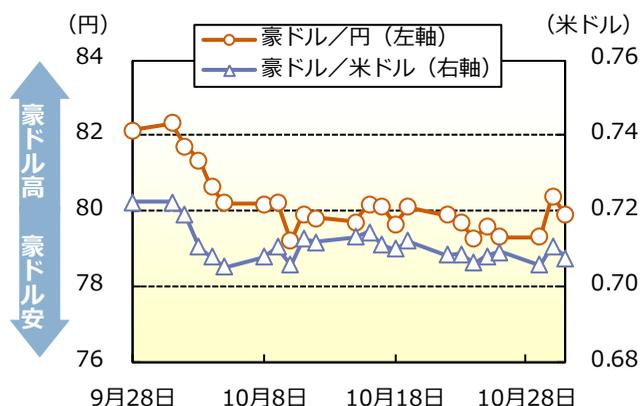
ボックス圏での推移を見込む

豪州景気の緩やかな回復見通しや、資源価格の底堅い推移などが豪ドルの上昇要因とみられます。一方で、米国の金融政策正常化プロセスの進展、豪州最大の貿易相手である中国の景気悪化懸念などが下落要因になると考えます。そのため、今後の豪ドルはボックス圏での推移を見込みます。

プラス要因	マイナス要因
<ul style="list-style-type: none"> 豪州景気の緩やかな回復見通し 資源価格の底堅い推移 	<ul style="list-style-type: none"> 米国の金融政策正常化プロセスの進展 中国の景気悪化懸念 貿易戦争への懸念

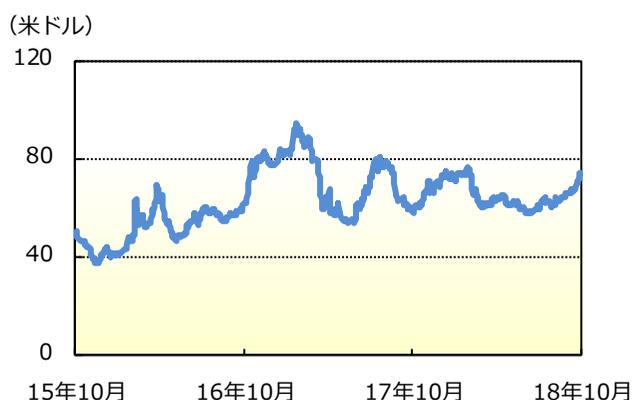
図表1：豪ドルの推移

(2018年9月28日～2018年10月31日：日次)



図表2：中国向け鉄鉱石価格の推移

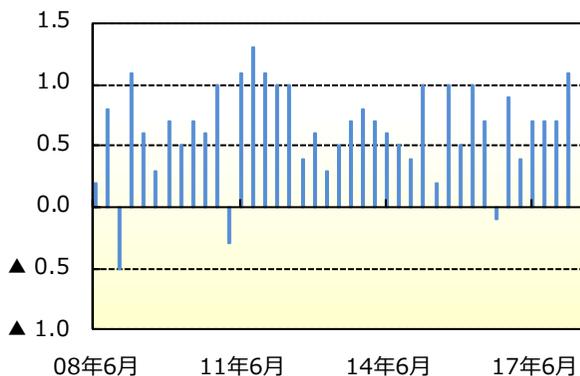
(2015年10月30日～2018年10月31日：日次)



図表3：豪州実質GDP成長率

(2008年4-6月～2018年4-6月：四半期)

(前期比、%)



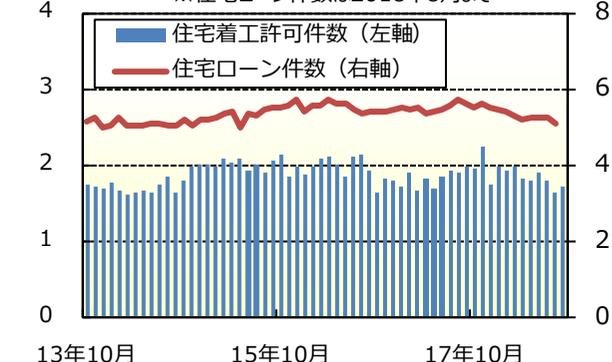
図表4：豪州 住宅着工許可件数と住宅ローン件数

(2013年10月～2018年9月：月次)

(万件)

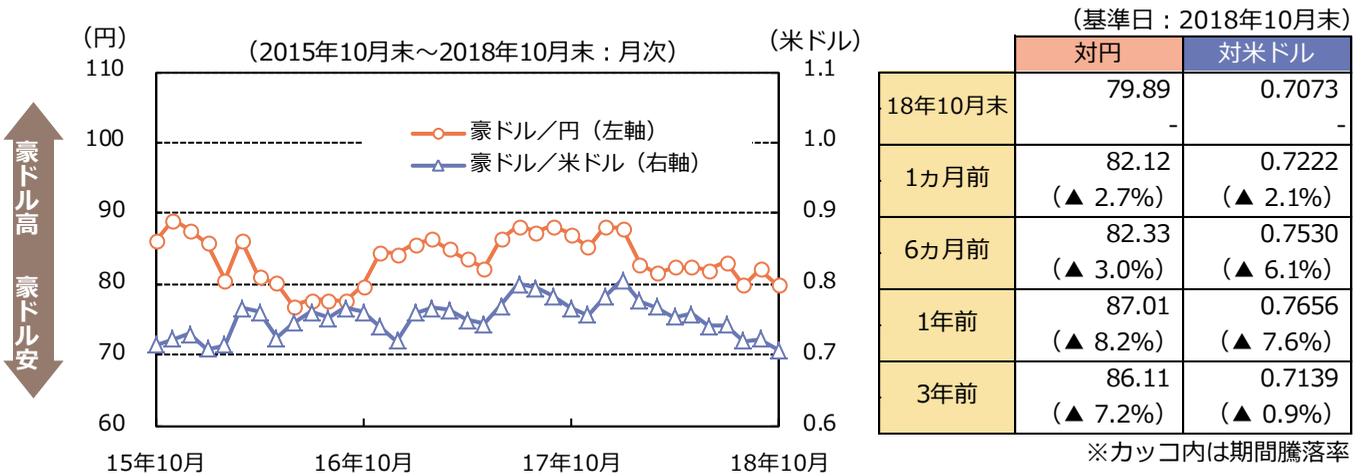
(万件)

※住宅ローン件数は2018年8月まで

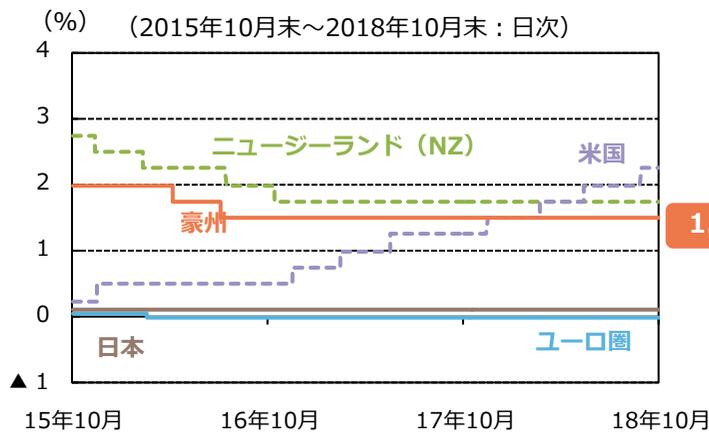


出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成。
 ※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。
 ※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

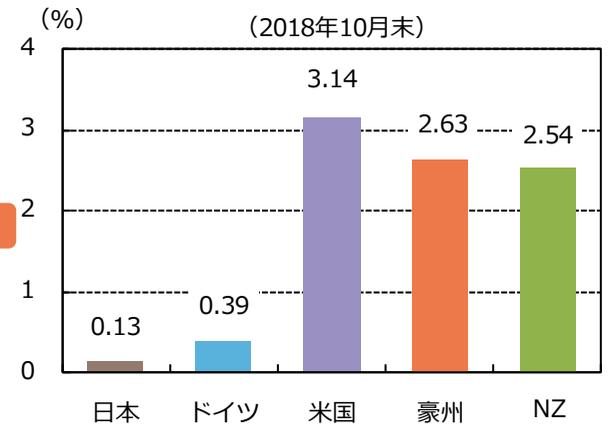
豪ドルの為替レートの推移



主な先進国の政策金利の推移

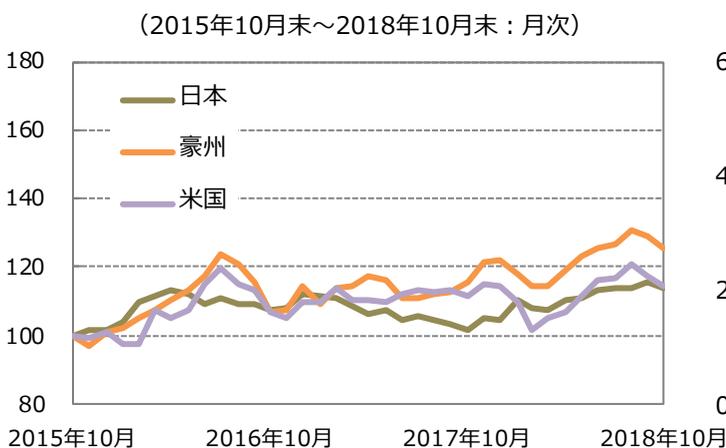


主な先進国の10年国債利回り

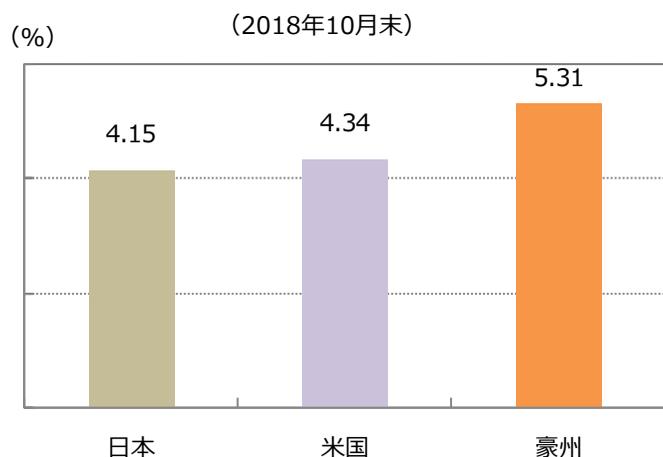


※2013年4月の日銀金融政策決定会合以降、日本の金融市場調節の操作目標が無担保コールレート（翌日物）からマネタリーベースに変更されています。また、2016年1月の金融政策決定会合では、日銀の当座預金の一部に▲0.1%のマイナス金利の導入を決定しました。

主な先進国のREIT指数の推移



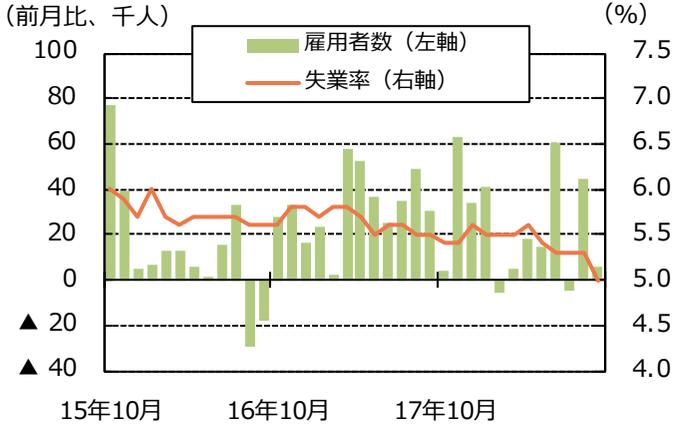
主な先進国のREIT配当利回り



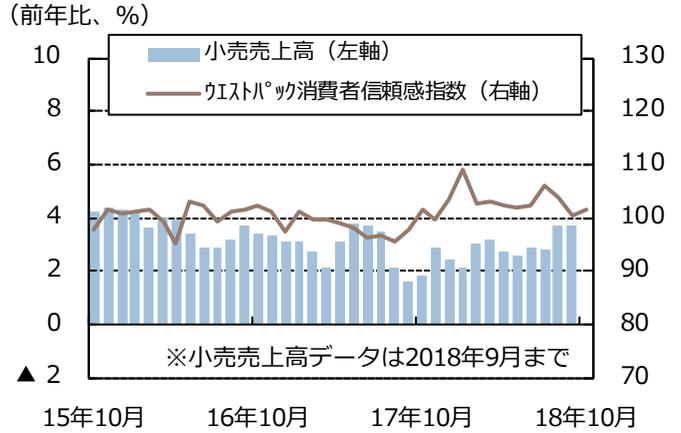
※主な先進国のREIT指数の推移は2015年10月末を100として指数化。
各国の指数はS&P各国REIT インデックス（現地通貨ベース、配当込み）を使用。
※主な先進国のREIT配当利回りは、S&P各国REIT インデックス 平均配当利回りを使用。

オーストラリアのマクロデータ

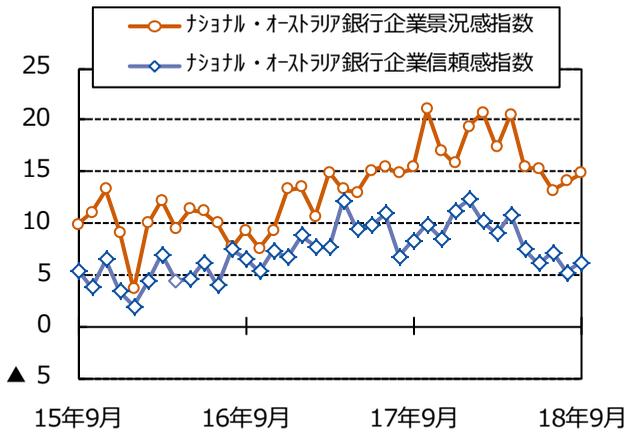
(2015年10月～2018年9月：月次)



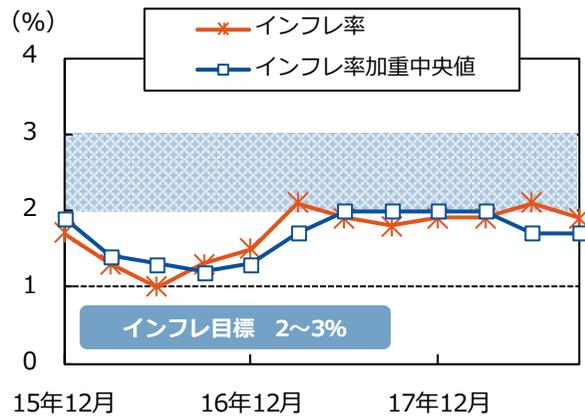
(2015年10月～2018年10月：月次)



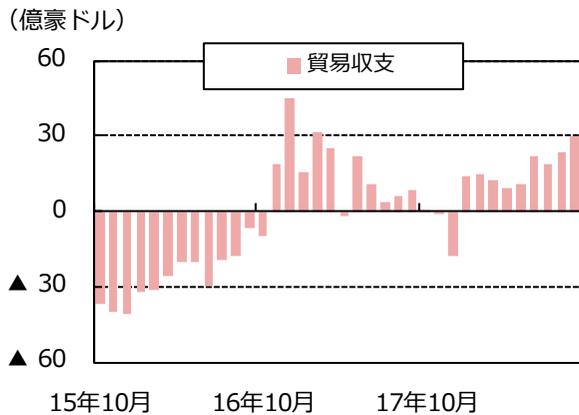
(2015年9月～2018年9月：月次)



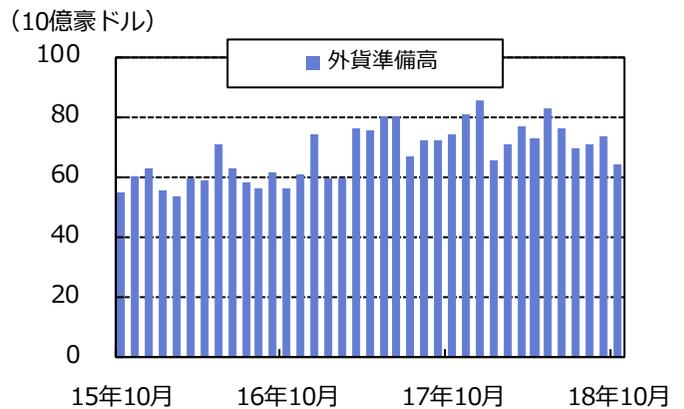
(2015年10-12月～2018年7-9月：四半期)



(2015年10月～2018年9月：月次)



(2015年10月～2018年10月：月次)



出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成。
 ※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。
 ※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率に記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【当資料で使用している指数について】

● S&P各国REITインデックスは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。

S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P各国REITインデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。